



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ⑤



(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

第2代藩主 松平頼致 (在任期間 1711～1716年)

第2代西條藩主 松平頼致(よりよし)は、**初代藩主 松平頼純**の第五男で、江戸の西條藩青山藩邸(江戸上屋敷)で、天和2年(1682)7月25日に生れ、正徳元年(1711)11月**松平頼純**の死により**30歳**で跡を継ぎ、**第2代西條藩主**となった。左京大夫と称し、従四位少将に任ぜられた。正徳6年(1716)5月1日に紀州徳川家の第5代紀州藩主松平頼方は、名を**徳川吉宗**(父方の従弟にあたる)と改め徳川本家第**8代**将軍に就任したため、初代紀州藩主徳川頼宣(よりのぶ)の孫にあたる**松平頼致**が紀州徳川家の家督を継ぐこととなり**第6代藩主 徳川宗直**(おねなお)と改名した。西條の治世は僅か**5**カ年、西條入国は、正徳4年の**1**度のみであった。紀州治世は**41**年**2**カ月にわたる。宝暦7年(1757)7月2日江戸中屋敷にて死去。享年**76**歳(満74歳没)。西條藩に残る文化7年(1810)「**文化七年御家中官禄人名帳**」によると、藩主に限らず家来衆の人的交流も盛んであったことがうかがえる。この当時、紀州藩から27人が西條藩士として西條藩に入り(出向)、中には家老を務める者もいた。いわば本家からの出向のようなもので、西條藩の上級藩士は紀州藩で占められていたという。そのため、藩士とその家族らが江戸を行き来する際は紀州に立ち寄るなど、紀州と西條の結び付きは強いものであったという。また、これらの藩士がもらう俸禄(給与)は紀州藩から支給され、それに加え**豫州**(よしゅう)と呼ばれる西條藩からの俸禄もあったという。豫州(予州と書くこともある)とは西條藩のことで、両藩から禄が支払われるこの制度はまれなものであった。



1714年、第2代西條藩主松平頼致が領内見回り中、土居町津根の八日市の水屋池に居合わせたお作(当時13歳)に一杯の水を所望され、その時の水を柄杓で差し上げたお作の「しぐさ、行儀、その上器量よし」に藩主がお気に召された。そこで、頼致公はお作さんを側室として西條藩に呼び、お作さんは「永隆院」と名乗るようになった。その後、頼致公は徳川宗直と改名し紀州徳川家**6代**紀州藩主となった。

そのため、お作も側室として宗直について紀州に上り、宗直は正室を持たずお作(永隆院 19歳)が産んだ長男・**徳川宗将**(おねのぶ)公が紀州藩**7代**藩主となり、孫・**重倫**が紀州藩**8代**を継ぎ、次男・**松平頼淳**は、はじめ第5代西條藩主を嗣ぎ、のち紀州九代藩主**徳川治貞**となった。

お作(永隆院)は、徳川御三家・紀州藩の母親として崇められた。

西條松平氏略系図

